# 5 芥川龍之介『手巾』

ある日、先生のもとへ一人の婦人が訪ねて来た。その婦人のは、先生が教えている学生であったが、婦人はその子の死を伝えに来たのである。

―なにしろ、手のつくせるだけは、つくした上なのでございますから、あきらめるよりほかは、ございませんが、それでも、あれまでにいたしてみますと、何かにつけて、が出ていけませんものでございます。

こんな対話をⓐコウカンしているあいだに、先生は、①意外な事実に気がついた。それは、この婦人の態度なり、＊なりが、少しも自分の息子の死を語っているらしくないということである。には、涙もたまっていない。声も、のとおりである。その上、口角には、微笑さえ浮かんでいる。これで、話を聞かずに、だけ見ているとしたら、だれでも、この婦人は、＊を語っているとしか、思わなかったのに相違ない。―先生には、これが不思議であった。

が、第一の発見の後には、まもなく、②第二の発見が次いで起こった。―

ちょうど、主客の話題が、なくなった青年の＊から、その日常生活の＊ディテイルに及んで、さらにまた、もとの追懐へ戻ろうとしていた時である。何かの拍子で、ⓑ団扇が、先生の手をすべって、ぱたりとの床の上に落ちた。会話はむろん寸刻の断続を許さないほど、切迫しているわけではない。そこで、先生は、半身をから前へのり出しながら、下を向いて、床のほうへ手をのばした。団扇は、小さなテエブルの下に―にかくれた婦人ののそばに落ちている。

その時、先生の眼には、偶然、婦人のが見えた。膝の上には、を持った手が、のっている。もちろんこれだけでは、発見でもなんでもない。が、同時に、先生は、婦人の手が、はげしく、ふるえているのに気がついた。ふるえながら、それが感情の激動をいて抑えようとするせいか、膝の上の手巾を、両手で裂かないばかりにかたく、ⓒニギっているのに気がついた。そうして、最後に、くちゃになった絹の手巾が、しなやかな指の間で、さながら微風にでもふかれているように、のあるを動かしているのに気がついた。―婦人は、顔でこそ笑っていたが、実はさっきから、全身で泣いていたのである。

団扇を拾って、顔をあげた時に、先生の顔には、今までにない表情があった。③見てはならないものを見たというな心もちと、そういう心もちの意識からくるある満足とが、多少ので、誇張されたような、はなはだ、複雑な表情である。

―いや、ご心痛は、私のような子供のない者にも、よくわかります。

先生は、しいものでも見るように、やや、に、をらせながら、低い、感情のもった声でこう言った。

―ありがとうございます。が、今さら、なんと申しましても、④かえらないことでございますから……

婦人は、心もち頭を下げた。晴々とした顔には、ⓓイゼンとして、ゆたかな微笑が、たたえている。―

語注

挙措＝たちいふるまい。動作。

家常茶飯事＝普通の事。

追懐＝過ぎ去ったことを思い出しなつかしむこと。

ディテイル＝細部。

問1　二重傍線部ⓐ〜ⓓのカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えよ。（3点×4）

ⓐ〔　　　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　　　〕　ⓓ〔　　　　　　　〕

問2　傍線部①「意外な事実」について、

（１）　それを述べているのは、どこからどこまでか。その最初と最後の五字を抜き出せ（句読点も一字とする）。（完答で6点）

〔　　　　　　　　〕〜〔　　　　　　　　〕

（２）　その中で、先生に最も強く「意外」を感じさせているものは何か。本文中から一語で抜き出せ。（5点）

〔　　　　　　　　〕

問3　傍線部②「第二の発見」の内容は三つ書かれている。三つの文の最初の五字をそれぞれ抜き出せ（句読点も一字とする）。（5点×3）

〔　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　　〕　〔　　　　　　　　〕

問4　傍線部③「見てはならないものを見たという敬虔な心もち」とあるが、その時の先生の心情の説明として最も適当なものを次から選べ。（6点）

ア　婦人自身気がついていない子供を失った悲しみを思い、かわいそうに感じている。

イ　婦人が子供を失った悲しみを必死で隠そうとしていたのだとわかり、敬意を感じている。

ウ　婦人はなにも感じていないように思っていたが、実は子供を失って悲しんでいることを知り納得している。

エ　婦人が子供を失った悲しみを隠そうとしているのを知って、そのような無理をしなくてもいいのにと感じている。

〔　　　〕

問5　傍線部④「かえらないことでございますから……」とあるが、「……」にはどういう言葉が省略されていると考えられるか。最も適当な言葉を本文中から抜き出せ。（6点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

練習問題〈四字熟語〉

次の空欄に漢字一字を入れて四字熟語を完成させ、それぞれの意味を後から選べ。

①　一（　　　）二鳥　　（　　　）

②　（　　　）顔無恥　　（　　　）

③　大器（　　　）成　　（　　　）

④　優柔不（　　　）　　（　　　）

⑤　自（　　　）自得　　（　　　）

ア　一回の行動で二つの成果を得ること。

イ　自分がした（悪い）行いの報いを自分の身に受けること。

ウ　ずうずうしく、恥を知らぬさま。

エ　ぐずぐずして物事の判断がつかないこと。

オ　すぐれた才能がある人は、普通より遅れて大成するということ。

【解答】

問１　ⓐ交換　　ⓑうちわ　　ⓒ握（って）　　ⓓ依然

問２　（１）　それは、こ〜んでいる。

　　　（２）　微笑

問３　・が、同時に　　・ふるえなが　　・そうして、

問４　イ

問５　あきらめるよりほかは、ございません

【練習問題　解答】

①石・ア　②厚・ウ　③晩・オ　④断・エ　⑤業・イ

【50字要約例】

息子の死を語るようには見えない婦人の態度を不思議に思う先生だが、手巾を握りしめる婦人の悲しみを知る。（50字）

▼補充設問▲

（本文21行目「そういう心もちの意識から来るある満足」に傍線を施し）

問　傍線部「そういう心もちの意識から来るある満足」とあるが、なぜ先生は「満足」したのか。その説明として最も適当なものを次から選べ。

　ア　感情をコントロールできるという人間の気高さに感動したから。

　イ　本当は婦人も悲しんでいるのだという考えが正しかったから。

　ウ　自分が不思議に感じていた事実が解明されたから。

　エ　自分と同じように人間は誰でも弱いものだとわかったから。

　答え　ア

問　この文章の表題として、最も適当なものを次から選べ。

　ア　微笑　　イ　団扇　　ウ　手巾　　エ　疑惑

　答え　ウ